

がんばれ青春たち

校長 武井 正明

水曜夜。吉田駅から近いお店で懇親会があった。楽しい時間も、あっというまにお開きとなり8時半過ぎ、吉田駅に着いた。弥彦線と信越線を乗り継いで帰途に就く。

と、新潟方面から越後線が滑り込んできた。

電車のドアが開くや否や、一斉に数多くの高校生たちが押し出されてきた。皆お疲れの表情だが、私には足取りが若く青春そのもの、エネルギーが漲っているように映る。

いいなあ…。俺にはなかった青春時代だ。わずかな時間も惜しい時計に追われる毎日。寝れば何時間でも寝られる。夜遅く朝は早い。体力的には限界ギリギリ。でも夢が身体を動かす。未来を夢見て希望に満ちたピカピカの青春、俺のあこがれ…。

その降りてきたひとりに、真っ黒に日焼けした精悍な高校球児の姿があった。

春の選抜、甲子園で活躍した日本文理で中軸を打つ、吉中OBの彼だ！

彼とは面識がない。でも私はメディアで彼を知っている。彼の妹さんは今春吉中を卒業していった。彼女は、私が吉中に来て最初に名前を覚えた生徒だ。

「…吉中の校長です。妹さん元気ですか？」「元気です！」「よろしく伝えてください。野球、応援してます!!」初対面、厚かましく気づいたらペラペラ喋っていた。

続いて、眼鏡の似合う吉中卒業生の彼女が、キラキラの笑顔で声を掛けて来てくれた。

「校長先生、『校長 vision』いつも読んでます」「嬉しいなあ。これからもぜひ読んでくださいね」「今、部活で毎日苦しいんです」「そうか苦しいか。でも私は放課後フラフラしていた高校時代だったから『部活で苦しい』って素晴らしい。羨ましいなあ…」

今思う。ごめんね。気が利かないね。あなたが苦しいって言ってるのに「羨ましい」なんて返されたら、もう何も言えないよね。もし時間が出来たら、ぜひ吉中校長室に遊びにきてください。今度はしっかりお話しをお聞きしましょう。

そして信越線に乗り込む直前に擦れ違ったのが、バドミントン部で大活躍した彼だ。躍動感と気迫あふれるプレーがカッコよかった。言葉少ない努力家だった。高校で更に筋肉がついたのがわかる。現在も頑張っていると聞いて嬉しかった。

高校時代はいろいろあるさ。いい事ばかりじゃない。悩みも尽きない。傷つくこともある。全部青春。あんなに辛かった高校時代が、無性に懐かしい。それも青春。だからあなたも今の自分を見捨てず、ずっと自分と付き合って歩んでください。

吉中生の皆さんはこれから。君たちの青春はまだ始まったばかりだ。